

# かささぎ



北京日本人学校  
学校通信 第7号  
令和2年11月30日  
校長 栗本 和明

## 変えないために、変化し続ける…

教頭 小川 裕子

朝晩は零下になるほど本格的な寒さを感じる季節になりました。毎日の下校時、丁字路で子供たちを見送っていると、これまで「寒くない、半袖でも大丈夫!」と言っていた子が薄手のダウンジャケットを羽織ったり、長い丈のズボンを履いたりしている様子からも冬の到来を感じます。乾燥した北京の冷たい冬です。世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスだけでなく、インフルエンザや風邪、ノロウイルスなどいろいろな感染症の危険があります。少し怖いような気もしますが、手洗いやうがいを徹底して行い、しっかり食べて、寝て、そして…「ガッハッハ」と大笑いをして免疫力を高め、健康に乗り切りましょう。



長く続くコロナ禍でいろいろな事が今まで通りにはできなくなりました。しかし、本校では10月23日(金)に『たてわり班オリエンテーリング』という新しい学校行事が誕生しました。朝陽区教育委員会の指導により全校遠足の実施ができないと分かった時から、それに代わる全校児童生徒が参加する取組みができないかと教員も知恵をしばりました。初めての取組でしたが上級生がうまくリードし、低学年が憧れと期待に満ちたまなざしで高学年のお兄さんお姉さんの様子を見て、話を聞いて活動する姿が見られました。終了後の子供たちの表情を見ると、上級生はやり遂げた達成感、下級生になると楽しみつくした後の疲労感が感じ取れました。『たてわり班オリエンテーリング』の終わりの会で話す機会があり、子供たちにも「このコロナの期間、辛抱することが多かったと思う。しかし、できない事を考え続けて嫌だ、辛い、悔しいなどと思いつけるのではなく、辛い思いをしたことはしっかり受け止め、その辛い気持ちを抱きしめて、今だからできる事を考えた結果、こんなに楽しい行事ができた。これからも辛抱しつつ、未来を向いて行こう。」と伝えました。子供たちもうなずきながら聞いてくれて、大変心強かったです。

10月以降は、校外学習が一部許可されました。こちらもコロナ禍だからこそつながった縁で新しい学びが生まれました。また、実際に出向くことが叶わなかったスーパーマーケットの社会科学見学や、幼稚園での保育実習は、オンラインでなんとかできないかと先方と相談し、実現することができました。実際に行けなくても会えなくても、繋がることができ、学ぶことができるという新しい経験となりました。

『たてわり班オリエンテーリング』やその他の新しい取り組みでの子供たち、教員たちの表情を見て、頭に浮かんだのは松尾芭蕉一門の俳諧の理念の一つ「**不易流行(ふえきりゅうこう)**」という言葉です。「不易」はいつまでも変わらないこと、「流行」はその時々に合わせて変化することの意味です。「絶対に変わらない部分」を忘れず、変化を続けている新しいものを取り入れていくこと、「新しいものを取り入れていくことこそが、永遠に変わらないことである」ということが表現されています。「子供たちの学校生活の充実」「子供たちのより良い学び」「子供たちの未来を見据える」という学校の意義、教員の仕事の根幹を変えず、新しいものを取り入れることが、子供たちの新たな学びや達成感、喜びにつながったからです。

2020年実施となった新学習指導要領は従来のものからの改訂のポイントとして「予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となるという社会の変化への対応」があげられました。グローバル化、情報化、多様化、テクノロジーの進化や変化という「予測困難な時代」は、どのようなキャリアを選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものであるとされたのです。奇しくも私たちは今年の初めからコロナ禍により突然違う形の「予測困難な時代」を迎えました。前例のない問いや答えのない問題に立ち向かわなければならなくなりました。これまでも時代の変化について考えていたにも関わらず、「予測困難な時代＝目の前にいる児童生徒が社会に出る時」という自分に都合の良い変換をしてしまっていたことに気が付き恥ずかしくなりました。

日本では、新型コロナウイルス第3波が来て感染者数が増えています。北京市は少し落ち着いていますが、中国内でも天津市や上海市では少しずつ感染者が出ています。この世界的なコロナ禍はいつまで続くのか、ワクチンはいつできるのか、そんなに早くには収束しないかもしれないと不安にもなります。「変化に対応し、社会を生き抜く力」「考える力」は私たち大人にも今まさに必要な力だと実感させられます。社会の変化、状況の変化にただ振り回されるのではなく、自分が大切にしたい、しなければならない「不易」の部分の確かに持ちながらも、周囲の状況を的確にとらえ、「流行」できるよう努めていきたいと思えます。



# 6年生ニュース ～盧溝橋・周口店遺跡～

# 小学部6年生

11月20日、小学部6年生17名が晴天の下、念願の校外学習に行ってきました。行き先は盧溝橋と周口店遺跡です。事前学習で関心を高めていた子供たちは、課題意識をもってメモをしたり、感じたことを記録に残そうと写真を撮ったりと、まさに小学部最高学年という名に恥じない立派な態度で学習に励んでいました。



度で学習に励んでいました。

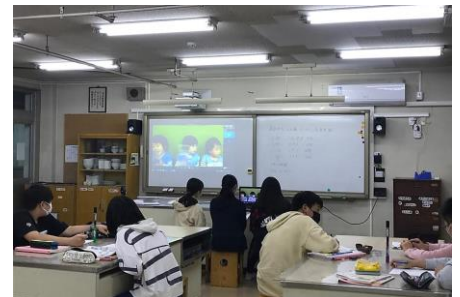
今回の校外学習は、実感を伴った深い学びという側面だけでなく、小学校生活の思い出作りとしての側面も持ち合わせていました。子供たちの様子を見てみると、仲間とともに過ごせる幸せを肌で感じているようでした。北京にもどれず、日本で学んでいる仲間にも、今回の貴重な体験を届けられるよう、学習のまとめにも力を入れていきます。

## オンライン保育実習

## 中学部3年生

11月17日、中学部3年生の技術・家庭科家庭分野で北京あおぞらこども園の協力でオンライン保育実習を行いました。年々少、年少、年中長インターナショナルクラス、年中長日本語クラスの園児たちの発達段階を考へて、手作りおもちゃを作成しプレゼントをしました。おもちゃで楽しむ園児を画面越しに見て、質問タイムを通して年齢による子供たちの反応や行動の違い、保育士さんの効果的な声かけなど多くのことを学びました。

12月1日には小学部1年生との交流会を計画しています。保育実習の経験をヒントに生徒同士で相談し、工夫して新たなおもちゃやゲーム作りに取り組んでいます。お互いの意見を取り入れながらより良いものをつくっていく姿勢をこれからも大切にしてほしいと思います。



### 事務局のまど

こここのところ、各学年ごとの校外学習の企画が実現しつつあり、事務局のメンバーも通訳のために、子供たちと先生に付き添って外出します。防疫のため、バスのなかでのおしゃべりは去年に比べると少なく、先生も手指消毒のためのアルコール持参だったりするのは、今年ならではの情景、そして今後はこれが新常态になるのでしょうか。それでも、目的地で久しぶりの友達とお出かけに嬉しさ全開、マスク越しながらも大きな声で話しながら、弾むように歩いている子供たちを見ると、季節は少しずれてしまっただけけれど、なんとか校外学習の機会が確保できて良かったと思わずにはいられません。これから3月まではあつと言う間、世界中が予定通りには進まなくなっている今、学校での先生や友達との一日一日を大切にしたいなと思います。

(事務局長 倉片)

## ただいま 何人？

小学部			令和2年度11月30日現在				
	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1年	7	10	17	4年	12	18	30
2年	18	22	40	5年	9	12	21
3年	15	14	29	6年	13	12	25
				小総計	74	88	162

中学部			
	男子	女子	合計
1年	6	12	18
2年	12	7	19
3年	6	6	12
		中総計	24
		総合計	98
		女子	113
		合計	211